

授業で怒るとき怒らないとき

～その良心にご用心～

1992.2.17 札幌たの教サークル

2002.2.1 デジタル化

北海道平取高校（当時）

丸山 秀一

教師の良心は押しつけの元

正義感が戦争に繋がるように、教師の「子どもため」という思いは、いらぬおせっかい＝押しつけにつながるが多いです。ところが、その押しつけも「子どものため」だと思えば、さらに自信を持って押しつけるので、ますますひどいことになります。

「教育とは、教師の熱い思いを伝えることではございません」板倉聖宣さん談

やはり大切なのは、「子どもたちに聞く」ということではないかと思います。

もちろん仮説実験授業にも「押しつけ」があります。「問題」があって、「はい予想して」なんてのは「押しつけ」です。でも必ず子どもに聞く。「たのしくない」なら、仮説実験授業でもやめる といった保証があります。

ところが良心的な教師には、その保証がない。「子どものためにやっているのだから、押しつけてもやらなければ」という教育の使命感はあるけど。こまりもん。

《宇宙への道》の授業で

この授業書を今までは2～3時間でやっていた。ところが今年は、もう10時間以上もやっています。授業書の通りにやっているのです。ようやく「イメージ検証授業」というのがわかってきた気がしています。（このレポートも書きたいなあ）

授業書の中に、「月に立つ」というビデオを見せるところがあります。これは25分間のビデオなので、50分授業の残りの25分間を、別のビデオ「月着陸の歴史」というのを見せることにしました。でも「月に立つ」が感動的なものに対して、「月着陸の歴史」は、あまりおもしろくない感じです。

まず1-2でビデオを見せて、評価と感想を書いてもらいました。

5	4
3	

1-2での評価

「5 とてもたのしかった」と「4 たのしかった」で75%。つまり「たのしさ度」75%。感想も「スバラシイ!」「よかった」というものばかり。

なかなかいい評価にボクはホクホク。そして次の1-1での授業では、尾形邦子さんの授業記録(『《宇宙への道》授業ノー

ト』)にあるように、「月

に立つ」だけを2回見せようと思うのであります。きっと、そのほうが感動があると。



このスバラシイ
ビデオを
2回見せよう!
カンドーすぞ!

1-1での授業

ところが視聴覚室にやってきた1-1のみなさんは、1-2のみなさんと違って全然「授業をする」といった感じではない。まさに「無政府状態」になりかかっていた……。

まあ6時間目だから、やる気がなくなってくるのはわかる。さて、みなさんならどうしますか?

[質問]

授業へいったら、生徒さんは勝手に騒いでいます。そして、あなたの話は全然聞いてくれません。こんなとき、あなたならどうしますか。

予想

- ア 怒鳴る
- イ 静かになるまで待つ
- ウ 教室を出ていく
- エ そのほか

「ヒトがせっかくおもしろいビデオを用意してきてやっているのに!」とムッと来ているボクは、生徒さんたちが話を聞いてくれないとわかると、10秒待ってから(この待ちが大切。これで迫力がまします)すぐに怒鳴ります。

「コラ!オマエラ,イイカゲンニシロ!!」

やはり、まず「問題」を読んで予想を立てて欲しい。だからまずは強制。一回は押しつけちゃう。生徒さんは「ちゃんとやらなきゃいけない」とわかっちゃいるけど、だらけちゃう」ということがあると思います。だから、その気持ちを後押ししちゃう。(ボクの思いこみに過ぎないのかも知れないけど)

怒鳴ると生徒さんたちは静かになりますが、「文句タラタラ」というカンジ。ビデオが始まると、「おもしろいぞ、感動するぞ」とワクワクしている教師の前で、寝はじめの人たち、マンガをこっそり取り出す人たち、おしゃべりを始める人たち、しまいには騒ぎ始める人たち・・・。

[質問]

さてこんなときあなたならどうしますか。

予想

- ア もう許さない、激怒
- イ 授業をやめて説教
- ウ 知らんぷりで放っておく
- エ そのほか

ボクはなぜ「ムカッと来る」のでしょうか。

どうも「俺がこんなにしてやろうと思っているのに」という気持ちが強いからのようです。「子どもに聞く」こと、子どもの評価がすべてのはずなのに・・・。

でも待てよ。そうするとこのビデオは「おもしろくない」ということになるか。うーん、残念。でも2組のみなさんは喜んでくれたし・・・。もしかすると、1組のみなさんもけっこうたのしんでいるのかも？

そういう予想が立つと、うるさい奴らのそばへ行って聞き耳を立てます。すると・・・。なんと鉛筆を投げて遊んでいる奴らは、ロケット発射のまねごとをしていたのであった。「もうすぐ月です。着陸です」とか言って遊んでいる。女子のおしゃべりもビデオの内容について！！

「なんで月では星が見えないの??」

「ロケットでおしっこはどうするの?」

「おしっこ!きたねー!」

そして、寝ているやつもたまに起きて見ているみたい。ううむう、結構見ているのねー。さてビデオの評価は??

「バカ! 月は地球30分だよ! もっととみいぞ!」

「月にどうやって?」



5	4
3	
1	

たのしさ度 47%

- 5 とてもたのしかった
- 4 たのしかった
- 3 どちらともいえない
- 2 つまならかった
- 1 とてもつまらなかった

うーん、2 組よりも悪いなあ。でも「5」のひとも結構多いし、感想がすごいので、いっぱい書いてある。

(名前の後ろの数字は「たのしさ度」)

- ・ 寝ていたような気がするふみえちゃんは
ふみえも宇宙でブッカリ浮いてみたくなった。あちらじゃ食べ物がまずいみたいけどダイエットになっていいかもね。ガガーリン「地球は青かった」。(ふみえ 5)
- ・ さんざん騒いでいた拓也君は
月に降りた時間をもっと正確に 0.0000001 秒まで計ろう。(拓也 5)
- ・ 騒いでいた女子たちは
宇宙へ行くのはとても大変だと思っていたけど、こんなにもいろいろなことを考える人もすごい！あと何百年かたてば、きっとまた別の方法で月とか行くことができるでしょう。私も宇宙へ行って、プカプカ浮かびながら地球を見てみたい。(かなこ 3)

宇宙船を作るにも壁や色々やらなきゃならないし、月に行くのも大変だなあ。でも見ていて出発するとき、こっちまでドキドキしてきた。キンチョーした。(じゅん 3)
- ・ 結局・・・
とても勉強になりました。
6時間目だったので、とても眠かったです。
アポロ計画はとても大きな計画だと思いました。宇宙旅行はとてもキケンそうでした。私は行きたくないなー。(みこ 4)
- ・ 評価 1 のひと
だれが地球を 33 個ならべたのですか？地球はひとつだから、33 個並べられないのではないか。(ももこ 1)

ももちゃんは、最近機嫌が悪い……。でも「地球から月までの距離に地球が 33 個も入る」なんて、しっかり見ている。



ビデオは、二回見せた方がやっぱりいいみたい。
そして、生徒さんたちのつぶやきを聞いてみるのもいいな。

徹底した子ども中心主義

生徒さんたちがたのしむかどうかは、教師が強制するものではないのです。でも仮説をやっていると、「たのしまないおまえたちが悪い」みたいになってしまうこともしばしば。(教科書授業ではハナッからたのしいと思っていないので、全く強制しないのだ)

仮説実験授業はスバラシイ。

でも、もっともっとスバラシイのは、子どもたちでそのほうが大切。

でもね、仮説実験授業は「証明された事実」のように自信を持ってできる。

なんたって

徹底した子ども中心主義

が仮説実験授業だから。

子どもを大切にすることは、やっぱり仮説実験授業をやることになる。

うーん、いつものことながら、まとまらないけど。

文中生徒さんたちの名前は仮名です。

丸山 秀一

kasetsu.maruyama@nifty.com